

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090600053		
法人名	株式会社創生環ライフケアサポート		
事業所名	グループホームとよだ		
所在地	長野県諏訪市豊田101		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事の写真や作品等で飾りつけ、季節を感じていただけるような支援をしている。建物周辺には、八剣神社があり散歩コースとなっている。隣接する小規模多機能ホーム集会所とよだやグループリビングとよだ(共同生活住宅)があり、在宅支援が困難になった場合でもなじみの関係の中で暮らせるようバックアップしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年が経過した。代表者が替わり、新たな地域との関係作りが始まっている。隣接する小規模多機能ホーム集会所、グループリビングの連携の中で地域で暮らし続けるための高齢者複合施設として地域に貢献している。管理者が中心となり各分野のマニュアルを作成し、職員会で検討して周知に努めている。質の高いサービス提供のために日々研鑽している姿勢が伺える。毎日個々の要点の得られた詳細な申し送り記録は、利用者の思いや意向の把握、自立に向けた排泄支援に、又、チームで作る介護計画の取組みにも反映されている。利用者の重度化が進み介護量が増えても、忙しい職員と察知されずに利用者からいつでも声が掛けられる職員を目指し、利用者向き合う時間を大切にしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(東)		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(西)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念については、職員会で管理者から再三地域密着サービスの意義を説明し、職員と共有するよう努めている。</p>	<p>職員会議で管理者は理念について話し合う機会を作り理念の共有に努めている。職員は理念に基づいた実践を心がけてきている。現在の理念を継続、実践して数年後には全職員で理念の見直しを行い新しい理念作りをする意向を伺った。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>事業所として区費を納めている。地区のお祭りに参加して交流をしている。</p>	<p>地区からの配布物が届けられている。神社への散歩、祭に出掛けている。音楽療法・ラジオ体操の指導、腹話術公演等のボランティアの方が毎週来ている。</p>	<p>今後、更に近所の方との交流、地元の保育園、学校等の園児・児童達との交流を通して地域の一員として日常的に付き合いをされていくことを期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議に参加されている区長、民生委員の方々に、「認知症の介護でお困りの方はいつでも相談に来てください」と会合の際等に伝えていただくようお願いしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的開催し、利用状況等を説明している。また提言、助言等は職員会議で報告している。</p>	<p>年4回開催している。利用者、運営状況の報告、防災関係等事業所運営改善に向けて検討している。行政、相談員、区長、民生委員、家族、警察、消防各分野からの出席が得られそれぞれの立場からの意見や提言はサービスの向上に向けた取り組みに活かされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加、サービス上での疑義が生じた場合の相談等、連携をとりながら関係構築に努めている。</p>	<p>保険者である広域連合及び地区担当の地域包括支援センターから運営推進会議に参加して事業所理解を得ている。利用者等のサービスに関する相談をしている。事業所連絡会に参加して行政、地域の情報を得ている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関しては職員会で確認をしている。</p>	<p>管理者が資料等準備して年1回身体拘束・虐待に関する研修をして身体拘束をしない取組みをしている。現在、身体拘束はしていないが、離設リスクの高い利用者が複数入所され対策を講じている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては職員会で確認をし、虐待が行われないよう職員同士でも確認しあい、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会の開催案内を掲示し、参加希望のあるスタッフが参加できるよう配慮している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、必ず契約書、重要事項説明書の読み合わせを行っている。また疑問、質問にも応じ、理解の上契約をしている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談に関する窓口を玄関および重要事項説明書に記載している。</p>	<p>敬老会、クリスマス会には家族と一緒に食事会を開き情報交換の場になっている。面会記入票に自由記載欄を作っている。記載内容は職員で共有して意見要望は反映出来るようにしている。面会時には、意図的に働きかけて情報交換をして連携を密に取り、信頼関係を築くよう努めている。個別面談が必要な場合は随時行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で意見や提案を出せる時間を設けている。労使委員会を組織し定期で委員会を開催している。	管理者との個別面談を年2回実施している。要望のある時は随時話を聞く機会を作っている。何時でも意見や提案が出来るよう「提案書」もある。労使委員会が定期的に開かれ、運営に関する職員意見が反映されるシステムがある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規則を作成し、環境、条件の整備をしている。昇給等については勤務実績を反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の告知は職員が目にする掲示板に張り周知している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・GH連絡会に加入し、研修会等に参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人様と面会し、サービスへの要望や困りごとの相談の機会を設けている。面会は管理者または介護支援専門員のほか、介護職員も同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前には必ず施設を見学していただき、運営方針を理解していただくよう努めている。その上で、困りごとや要望をお聞きしながらサービス提供するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を聞き、必要に応じて協力医とも連携し、その時必要な支援の検討をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの暮らしも今までの延長上にあると考え、今までやられてきた事はご自分でやっていただき(調理、洗濯など)、お互いが暮らしの仲間であると感じている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族での外出等呼びかけ、外食や散歩、通院付添いを実施している。季節の行事も一緒に参加していただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や隣の家の方が面会に来られるよう配慮している。	複数の元職場の仲間が訪問して居室で交流会を持つ。隣近所の方の面会等いつでも来所出来るように支援をしている。年賀状を出したい方、電話をしたい方等一人ひとりの馴染みの関係を大切に丁寧な支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や行動特徴を把握し、その人と気の合う関係を促し、時に職員が間を取り持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、電話相談等は受けるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良い関係を築き、関わることで本音の思いや意向があらわれるのではと考え、ゆっくりとした時間の中で関わりながら、意向の把握に努めている。	ゆっくりとした時間で関わることを心掛け、思いや意向の把握に努めている。利用者からの話し言葉を申し送りノートに個別に記録して共有している。嗜好、趣味等に関して把握し個別支援に活かしている。複数の利用者から養蚕の話聞き、蚕糸博物館からの出前講座を開いた実践をうかがった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接等で本人、家族の話きくとともに、日常の会話から今までの暮らし方などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議の中で、その都度モニタリングを行い、現状等の把握をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族の意向を伺ったり、協力医等から意見を伺ったりして、定期のケア会議にて本人の意向に則した介護計画作りをしている。	毎月カンファレンスにて、短期目標・サービス内容を項目ごとに具体的に評価している。家族・本人から生活に対する意向、訪問看護、医師の意見を活かしケア担当者会議を経て介護計画に反映している。支援経過記録も把握し易い。変化が見られた時には随時見直し現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート等に、関わりや会話を記録し、日常の様子がわかるよう工夫し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して、職員、家族等で話し合い、本人の意向を尊重している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加し、地域との繋がりや生きがいを感じられる支援に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携をとりながら、必要に応じ、ご家族にも受診付添をお願いしながら支援している。	広域からの入所のためにかかりつけ医は利用者・家族の理解で協力医となっている。訪問看護月2回の定期訪問の他、状況に応じて随時連携をしている。家族、又は職員が付添い通院、必要に応じて往診もある。専門医への受診は有償ボランティア利用する時もある。協力医に精神科からの情報提供がされている等適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、月2回の訪問看護を行っている。その際、医療的な相談をし助言をいただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室と連絡を取りながら、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                      重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期については、協力医を含め体制を整えている。看取りが希望の場合は同意書を得るようにしている。</p>	<p>身体状況の低下により主治医から指示があると本人・家族、医師、看護師、職員で話し合いを行い、「同意書」で本人・家族の意向を確認している。状況が変化した場合は「同意書」内容を再度本人・家族から得て意向に添いながら関係者で共有し支援している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え                      利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時についてはフローチャートマニュアルを作り、掲示し職員会でも確認をしている。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策                      火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災・避難マニュアルを職員全員に周知し、実際に避難訓練も行っている。備蓄品も随時確認している。</p>	<p>災害に関するマニュアルを作成し職員会で確認している。年2回訓練を実施した。消防署立ち会いで夜間想定訓練を予定していたが御嶽山噴火によりシミュレーションで終わった。運営推進会議で地区の避難場所になっている。水・食料品、介護用品、サバイバルシート、ラジオ、カセットコンロ等を備蓄している。</p>	<p>災害に備え備蓄品を詳細に準備される等真剣に取り組まれている。今後、更に夜間想定、連絡網等の訓練を実施し昼夜を問わず災害に対する備えと共に、地域との協力体制を構築していく事を望みたい。</p>
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保                      一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご本人様、周りの方が不快に思うような言葉かけにならないよう気を付け、その人の尊厳を大切にしよう心掛けている。</p>	<p>マニュアルを作成して職員会で話し合いをしている。研修会参加後は復命研修をしている。接遇の学習を重視し行い、本人・家族、周りの人に不快感を持たせないよう言葉使い、立ち振る舞い等に気を付けている。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援                      日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自己表現しやすいように1対1の関わりや、答えやすいよう質問を工夫している。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴に関してはできるだけ希望に沿うように努めている。体操やレクリエーションなどを実施する場合も強制しないようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関してはご本人様の着たい服を着ていただくようにしている。ご自分でお化粧されている方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ食事をし、会話しながら楽しめるよう努めている。また、準備や片づけも手伝える範囲で一緒に行っている。	季節感ある食事になるよう配慮している。食材の差し入れのある時は献立を変更して調理している。家族との食事会、花見などのイベントにはケータリング利用して楽しんでいる。職員と一緒にの食事、片付け、食器拭き等は職員が個々に寄り添いながら行っている場面が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形状にしたり工夫し、食事が摂れるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをしご自身でなさる方、見守りが必要な方などそれぞれのできる範囲での支援を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたいと思った時には必ずいけるようにしている。また声掛けによって促している。	利用者申し送り記録に排泄に関する個々の必要な情報を赤ペンにて記載している。排泄時間、排泄用品、声かけ・誘導・介護方法等記録から根拠を得て気持ち良く排泄行為が出来るよう支援している。排便に関しては、医師への相談や訪問看護師からのアドバイスを得て日を追って把握して食事内容含めて排便コントロールをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りノートに排便に関する記録を残し、職員間で共有している。牛乳など便秘に効く食材も提供している。必要に応じ主治医に相談し、内服薬などを処方している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望がある方は希望に沿う入浴をしている。ない方は、入浴の好みや間隔を考慮し入浴している。また、拒否がある場合は無理に勧めず、本人の気分を優先させている。	日中の時間帯を中心に1日3~4人が入浴している。残存能力を活かせるよう入浴支援に配慮している。リンゴ、ゆず湯など季節毎楽しめる入浴している。拒否される方は下着を付けたまま湯船に入る時もある。更衣含めてゆったりと入浴が出来る空間である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにはソファを置き、いつでも休息がとれる環境を用意している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の説明書をファイルし、職員は必ず目を通すようにしている。薬が変わったり等変化があった場合は、その都度メモや会議等で周知徹底するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道など今までやってきた作品を掲示したり、新たに作った作品などを飾っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は施設内周辺を散歩している。ご家族との外出もしている。</p>	<p>気候の良い時は、屋外で草取り、ベンチで休息、近所の神社へ散歩する等して気分転換をしている。年数回花見等の外出行事、家族と一緒に外出するなど、希望に添いながら外出支援をしている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は家族、ご本人様と相談の上管理している。ご自身で所持している方もいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を持っていただける方もいる。電話をかけたいと希望があるときは、事務所の電話を使っていただいている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下の壁には行事の写真や、季節感のある掲示を心掛けている</p>	<p>天窓から柔らかな光が差している。利用者の書初め、大風等が壁に飾られ季節感のあるダイニングリビングを中心にキッチン、浴室、トイレ、和室の談話コーナーがある。利用者、職員は常に寄り添える距離にあり安心感が得られる。空気加湿清浄機が設置され、床暖房で快適な空間作りがされている。また、ゴミ箱は小型のものにしてこまめなごみ処理を心掛けるなど施設の臭いを意識して不快な臭気を出さないように取り込まれている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や玄関に椅子を置き、だれでも座れるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真を飾ったり、なじみの家具を置いたり居心地のよい場所になるようにしている。	居室は空調が入っている。ベット以外は本人・家族が持参した寝具、タンス、椅子類、カーペット等使いやすく配置している。クローゼットには寝具、衣類等が収納され、季節毎に家族が入れ替えをしている。慰霊、位牌、家族写真等を置き居心地良く心安らぐ居室作りに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゴミ箱にはゴミ箱、水道にはお湯・水等の表示をし自分でできるように工夫している。		

### 目標達成計画

作成日:平成27年2月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や災害時の避難訓練は、避難マニュアルを作成し、随時確認や訓練を行っている。職員の入れ替わりもあるため、常に非常時の行動の確認が必要と考える。	マニュアル等をしっかり確認し、非常時に落着いて行動できるようになる。	マニュアルの確認、消防設備の使用方法の確認、連絡網がきちんと機能するか確認、年2回の避難訓練実施。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。